



□欄に数値またはコメントを記入

| | | | | | | |
|----------------|---------------------|-----|-----|--------|----|-----|
| 1. 建物概要 | | | | | | |
| 建物名称 | ヤマハ発動機株式会社 32号館新築工事 | BEE | 1.3 | BEEランク | B+ | ★★★ |

| 2. 重点項目への取組み度 | | | | | | |
|--|---------------------|------|-------|-----|-----|-------|
| 重点項目 | 得点 [※] /満点 | 取組み度 | 評価 | | | |
| "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.5 | /5 | ふつつ | | | |
| "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster) | 3.0 | /5 | ふつつ | | | |
| "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 2.4 | /5 | がんばろう | | | |
| "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature) | 2.7 | /5 | がんばろう | | | |
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | | | 評価 凡例 | よい | ふつつ | がんばろう |
| | | | 4 | 3 | 3 | 点未満 |
| | | | 点以上 | 点以上 | | |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要 | | 内訳対応項目 | |
|--|--|---|---|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。 | | 得点 | 3.5 |
| <p>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</p> <p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ③ブラインドと庇を組み合わせている ④更新必要間隔11年以上～20年未満 ④屋外露出ダクトは、ガルバリウムダクトを使用 ④更新必要間隔16年以上～30年未満</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦[BPI]_m = 0.80 ⑨エネルギー消費量の目標値が計算され、建築主に提出されている</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫ボード、ビニル床材 ⑫躯体と仕上材が容易に分別可能 ⑬有害物質を含有しない建材種別が1つ以上 ⑬不活性ガス消火剤を使用</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率81%</p> | Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮ | ① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善 | |
| | <p>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</p> <p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰地震時に全体機能停止を引き起こさない対策を行っている ⑰節水型器具を採用、汚水中継槽あり</p> | Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰ | ⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備 |
| | <p>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</p> <p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高5m ⑲壁長さ比率=事務所:0.22, 工場:0.12</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> | Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳ | ⑱ ⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上 |
| | <p>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善)</p> | Q-3 1 ⑵ 2 ⑶ 3 3.2 ⑶ LR-3 2 2.2 ⑵ | ⑵ 生物環境の保全と創出 ⑶ ⑶ まちなみ景観への配慮 ⑶ 敷地内温熱環境の向上 ⑵ 温熱環境悪化の改善 |

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-----------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | ヤマハ発動機株式会社 32号館新築 | 階数 | 地上3F |
| 建設地 | 静岡県磐田市新貝2162番1 他5筆 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 工業専用地域、法22条区域 | 平均居住人員 | 200 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 3,640 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 事務所,工場, | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2020年11月 予定 | 評価の実施日 | 2019年7月30日 |
| 敷地面積 | 11,397 m ² | 作成者 | 渡邊 純一 |
| 建築面積 | 3,994 m ² | 確認日 | |
| 延床面積 | 9,011 m ² | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

| 総合 | その他 |
|---|--|
| <p>これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。</p> <p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>⇒CASBEE建築(2016年)の評価を元に建物の長寿命化を目指す。</p> | <p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> |
| <p>Q1 室内環境</p> <p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>⇒化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用し、室内環境の向上を図る。</p> | <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>⇒既存緑地はそのまま残し、周囲の景観ともバランスよく調和させている。</p> |
| <p>LR1 エネルギー</p> <p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>⇒年間エネルギー消費量の目標値を設定し、管理することで効率化を図る。</p> | <p>LR3 敷地外環境</p> <p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>⇒光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。</p> |
| <p>Q2 サービス性能</p> <p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>⇒OAフロアの採用、天井高さCH=2700以上を確保等、階高の有効活用に配慮している。</p> | |
| <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>⇒リサイクル資材を活用する</p> | |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい